020300-000-5
特49-477
乙女の善行
三浦　徹／編
M21
ABI-0106

乙女の善行

膚さす寒もいとゞ冬の末凌ぎかねたる孀婦のくらし二人の子女を此上なくも頼みし甲斐のありてかや兄のジャックは先つ頃鐵道會社の機關士に雇はれければ朝夕に通ひ慣たる鐵道も日日の生計の山坂も何の障碍もなきものから母のよろこびいかばかり殊にやさしき妹のケテー己が住家に程近き河邊に高き橋臺に架渡したる鐵道橋を汽車の越し來る其時に兄の無事なる顔見たき路次の泥濘はものともせず母の許を得しまゝに今日も待居て逢なんと出行く空は晴たれど近頃稀なる大雨の三日三夜も降りつゞき折も折とも冬の日の日脚みじかき夕五時頃橋邊の木蔭に佇て今やおそしと待程に日暮に近くなりぬれど兄の見えねば歸りも得ず遲くなりなば母御にも嘸かし淋しく待詫なんと思案ながらも木根に坐り渦まく流れを見てければ

勢ひさながら龍虎の戰ひ飛が如く嘯るが如く怒るが如き有樣をいと恐ろしくも見る影の橋の眼鏡を突く水の玉散る泪はれかしくも又面白さに心猝はれ更に餘念はなかりけり、知らぬ乙女は然もありなん世故に長たる人々は抑も此橋は其はじめ建築よからぬのみならずはや老朽てありけれど試驗やせんか新橋を架替なんかとまち〱の評議中にてありしとかや

日は西山に落入て後の明のいと短かく頓て暮なん烏玉の夜も程近くなりぬれどケテーも今は待わびて汽車はまだかや兄上はまだ見えませぬかと延上り遙むかふを眺れば待し甲斐ありかすかにも來かゝる汽車の見えければ頓て橋邊に來ぬらんとケテーは立て小躍し手巾振つゝ出迎へば兼て知りたる合圖なり夫と見るより兄ジャック同く記號の答を爲し年十五の我妹いつも變らず大木の下に待居ることとなるかと漸く近く來る程に

鐵鋼に身を固めし奇怪の物の這來る如く昔語の變化物かと疑はるゝも無理ならずケテーが眼にて見るときは彼大なる器械をも動かすものは眼に見ゑて自から動く變化物の續々敷も歩み來て呼吸ハ生とし活るものつくと少しも違はねば訝かしく又れかしくも見ゑにけり殊に此汽車は兄ジャックが引ものからいとゞ樂しく思ひつゝ脇眼もふらず近づくを待居ることぞ道理なれ

汽車はいよ〱近きて橋の虎口にかゝりし時あな神よ是は何事ぞ抑も何事の來出たるぞ材木泥塗一聲に落たる響を聞と等しく鐵鋼よろひたる彼怪物の首さへ河の此方の岸邊なる水の淺瀬に突落されどつと一聲きゝしまゝ後は響もなかりしがケテーは眼を拭つゝ夢の覺たる心地して餘のことに驚きつ實のことゝは思はれず唯忙然と立たりしが頓て心もつきたれど聲

を限りに叫びたてジャックジャックと呼はりつゝ險しき岸を這ひ下りて泥土石灰石材木落たる中に倒れたる汽車の方には向ひしが物に躓き倒け轉び進みかねたる足下に竪持垣の落たるに中りてならん唯今死にたる火夫の屍にはつと驚き後しざりいよ〳〵怖さ恐ろしさにしどろに踏止めず頭も足もぶるぶると震ひ慄くばかりなり然りとて行かねば同胞の兄に逢なん術なければあへぎ〳〵て破れにし機關の下に近よりてシャックジャックと呼はりて何處に在すと尋ぬれど痛みに弱りしふるへ聲なれどジャックの聲と位て一言應聲のありしよりケテーの嬉しさやるかたなしジャックも聲を勵ましてケテーよ予れ爰にあり機關のうちにあるなれど此大石ゝ痛められ詮術なけれど其許がかよわき力に及ばねば揚んとするも無益なりウヰリヤムスは何處ぞと問はれてケテーはしやくりあげウヰリヤムスは死し

たれぞ妾ハ是より助人を迎へて來なん待玉へといへばジャックも合點て然なり然なりよくも心づきしぞ我脚の上なる此おもみ恐ろしけれぞ旻天よケテー來て見よ我を見よ爾勇健なるか心をたしかにもち居れよ余が眩暈する鐵道も豫て其方は蹈慣たりといひつゝジャックに力をつけ打身に惱みし身体を髁臂つきて持上つゝケテーよ三百人の生靈を助くるものは爾なるを今より半時間にして別仕立の滊車てゝに來らん急ぎ此事を報知ずバ又もや茲に陷りなん電信局は町近にて此處より遙に遠けれど橋の桁木に攀登り彼方の岸に渡りなば停車場までかけつけて後の車は彼所にて止めしむべき間に合ふべし疾々行きて報知べし我身は此大石に押へられ動くことこそならねども必ず氣遣したまふな夫まで待つことといとやすしはやうはやうとせきたてられケテーは上を見あぐれぞ破れし橋は高けれど

機關に登れば居かんと思へど河幅三四丁迅き流れの水深く然も恐ろしく見ゆれども桁木づたへに這ひあがる身はさなきだに小乙女の晝の最中も恐ろしく危き橋に取つかん時もときとて眞の闇あやめもわかぬ暗がりに目に遮るは大空の星の光と瀧川に玉散る浪の光のみ斯る危難を憶せずも渡り初たる凄じさ其強勇は壯夫に優りしことぞ目覺しき

此方にジャックは聲張上げ我神よ三百の人民將に死なんとて誰一人も之を助くるものなしといへぞケテーは大息つき妾助けん行て來ます行て來ますずよジャック兄と聞てジャックも力を添へ妹出來した我妹早く行きやれ此身をば決して氣遣しやるなよ諸人の生命助なり諸人の歎を救ふなり恐れ慄くこと勿れ下は水とな思ひなせぞ神は爾を守りなん予は爾を氣づかわず氣遣ふ心更になしと實にもジャックの信心は天父の愛護を熱心に

信仰すきぞ妹が荒れ破れたる橋桁を傳ひ〳〵に這ひ登るも心に氣遣ひせざりしなり然どジャックは烏玉の暗夜を照す星影に妹の俤すかし見て我身の痛を顧みず不幸に罹りて大勢の人の命をひきうけて心細くも小妹の助を待つぞ憐なり

斯てケテーは心を定め兄の頼の一事をいざや仕遂んものかはと踏へし足下きつと見て見分かねたる桁木をつたひ切に心は附たれど咫尺も分かぬ橋なかば一足つまづき踏外し瀧なす流の河中にあわや落んとしたれども辛くも足を踏止めしは流石に猛き兵卒も功名手柄は何かせん説くも勸むも甲斐なきいくさ逃ねぞならぬ落武者の不意をうたれしばかりなりかよわきケテーは大材をしつかと執へて忍びなき頭は冷たき鐵道に觸たる折しもジャックの聲溜にひゞきて我神よ三百人の人々は今や死なんに助なしと云ふにケテーは心を勵まし眞の暗路の横

桁を手に執り膝に蹈へつゝ最早躊くことなしと這ふ〳〵橋を渡り越へ彼方に立しときケテーが心に思ふやうジャックに別れて其後にはや一時は過ぎたらんと思ひすごせど其實は僅に二十分ばかりにて此處につきしはたふとくも實に神の加護なり」

漸くケテーは大息つき夫より直に大いうぎ河の後なる停車場すこしもはやく知らさばやと息せき走りつきにける此處は小さき立場にて常に止めぬ汽車なれば向のかたより飛ぶ如く駛りくるまも知るなれば此處にて滊車をとゞめねば必ず大事に至らんにケテーが此處につくとひとしく遙に炎をひらめかし速くも汽車の地響をケテーはきゝてあわたゞしく夫とゞめよ汽車止めよ橋は落たりうれ止めようれを止よ止よと云ふ聲きゝて驛長は事の樣子を尋ねんとあはてふためき躍りいで此方に馳せ來る有樣を見るよりケテーは猶豫なく報難燈と名づ

けたる危難の合圖の燈をつとり道の央に走りいで彼方此方に打振れバ來かゝる汽車も應の合圖なしつゝ此處に止めんと用意したれバ恙なく滊車は此處にて止めたり

爰にケテーを見知りたる肝煎役人出來り是は何故ぞ何事ぞと問ふに答へて云ひけるは橋は落たり今のまへ過にし汽車は彼河の向の岸に覆りジャック夫に乘り居れど橋より落て大石に打挾まれて動き得ず然ど自身のためならず汽車乘客を助けんとて妾を遣すものぞかし彼處にジャク一人なり早う誰なと小舟にて助けにやりて給びたまへどうぞ／＼と乞ひけれぞして又其方には如何にしてよくも此處へは來しものぞ如何に少女と尋ぬれば橋桁づたひに橋越て道もやう／＼手を膝に這ふ／＼此處へは來つるなれあわやジャックの助人をどうぞ送りてたまはれと心急ぐも道理なり

時に車の乘客は乙女の健勇に九死を救はれ一生を得んことは神ならぬ身のいかで知るべき隔の河の水面に浮ぶ小舟にうちのりて押腕つよき舟子に漕がせ私心更になきジャックを早く救ひ出し機關の破裂に怪我させじと一心不亂に來て見れば其片脚に傷つけられ劇しき痛と見ゆれども三百人の貴き生命乘せたる汽車の助かりしをジャックは此上なく喜ぶものから我身の痛を忘れけり

偖乘客の其中にケテージャックの骨折に報ゆと云ふには足らねども聊寸志のしるしとて數多の黃金を二人に贈り謝詞を述るもありけれど私ごころ更になく人の爲とて我痛能くも堪にし身の耐忍丈夫に勝りて撓みなき乙女の勇氣誰ありて譽ぬものなき敢爲の勳功如何で此儘埋むべき鐵道會社は此度のジャックの爲業凡常の機關士などにあらずとて專門學にいれければジ

K-53

ヤツクは此の高等の學科を卒りて其後に鐵道橋架の建築を家業と爲して暮せしが今は豐かに富み榮え目出度身とはなりにけり又ケテーには乘客より貰ひ得たりし五百圓又其外に一千圓合せて一千五百圓ケテーの名にて銀行に振込手形を渡されたり

喜の音第十六號

明治二十一年六月廿六日印刷
明治二十一年六月三十日出版

編輯兼發行者 三浦徹
東京日本橋區蠣殻町一丁目四番地寄留

印刷者 廣瀬安七
東京日本橋區兜町壹番地製紙分社

49
7